

## 近藤勇書簡 解題

小島政孝（小島資料館館長）

この解題は、下記講演会の内容から近藤勇書簡に関する部分を編集したものです。

三鷹市文化財講演会

演 題：大政奉還から百五十年―三鷹吉野家文書から読む幕末群青史―

開催日：平成 29 年 11 月 11 日（土曜日）

会 場：三鷹産業プラザ

講 師：小島資料館館長 小島政孝氏

講演会の全文は 2019 三鷹市『三鷹市文化財年報 1』に収録

吉野家にある書簡は、近藤勇五郎さんが大変吉野泰三さんを尊敬していましたので、多分宮川家にあった文書だと思うのですが、その新選組関係の史料を一括して寄贈されたのですね。吉野家では、これを無くならないといかないと言ふことで、まとめて軸装されまして、それで保存されていたわけです。

- ① 沖田総司 慶応 三年 十一月 十二日推定
- ② 近藤 勇 文久 三年 十一月 廿九日
- ③ 宮川信吉（1） 慶応 二年 正月 廿八日
- ④ 土方歳三 慶応 二年 三月 廿九日推定
- ⑤ 佐藤彦五郎 元治 元年 八月 十二日
- ⑥ 宮川惣兵衛 慶応 元年 十月 廿六日
- ⑦ 大石欽次郎 慶応 二年 八月 朔日
- ⑧ 宮川信吉（2） 慶応 三年 六月 廿四日
- ⑨ 吉野泰三メモ 明治 廿二年 一月

私は、これらを写真に撮りまして、解読したわけです。ですから最初の時はこういう順番でありまして、沖田総司から宮川信吉まで 8 通の書簡があります。ただ年代が色々あるんですね。そういうことで、そういう関連のお話を、書簡を中心にしたと思います。『幕末史研究 32 号』に発表した時は平成 7 年でしたので、発表してから 22 年後ということになります。

近藤勇の最初の名は宮川勝五郎、宮川家に生まれ、宮川勝五郎と言って。嘉永 2 年 6 月に、目録を伝授されて、10 月 19 日に近藤周助に養子に入ると。普通、養子に入ると近藤家だったら近藤と言う姓になります。天然理心流の師範宗家が近藤内蔵之助、二代が近藤三助とあって、剣術の宗家の名前が近藤なんです。近藤勇が、養子に行った時というのは剣術の切紙のあとで、目録なんです。実際にはこの後に、中極位目録、免許、指南免許というのがあって、指南免許を取ると近藤姓になるんですね。ですから勇はまだ近藤姓を名乗れなかった。近藤周助の元の姓が島崎なので、それでそれを使えということで、名前は勝五郎から勝太に変えたんですね。そのあと島崎勝太という言い方をします。その後安政 4 年あたりになると島崎勇と言う言い方です。そして万延元年の 8 月 27 日に襲名披露というのがあって、これは大國魂神社で 4 代目を襲名したという披露の野試合をやったんですね。ですから正確にいうとそれが正式に近藤周助から勇へ天然理心流の師範をバトンタッチしたことになります。年齢が近藤 28 の時なんですね。そして近藤勇と言う名前になっております。

近藤勇の子孫の家に切紙、目録、中極位、免許、これが全部残っていると、いつその腕になったか分かるんですが、残念ながら勇の目録はありますが、免許とか中極位はないんですね。ですから中間が分かりません。多分この名前が変わっているところと、そういうふうに行き届いたところと関係あるかもしれないんですけど、それははっきりしません。

そしてこれで見ると、近藤勇は剣客としてかなり日本中有名なんで、普通に考えると剣客として教えていた期間がすごく長い感じがするんですね。実際には近藤が師範代の時に教えた時は、多分近藤勇が教えるも周助の名前で許証を出したので、さっき言った襲名披露をやってから後が、近藤が正式に切紙、目録を出せるんです。その期間を計算してみたんです。それがこの表の師範の期間と言う所、文久元年の 8 月 27 日に襲名披露した。この日の後から 1 年間と 4 ヶ月と 3 日です。10 月 1 日は新曆に直した日が、例の大河ドラマの新選組の時に、スイカを食ってるシーンがあったんですよ。8 月 27 日と言って、今の感覚で言うと 8 月なんですけど、旧曆で言うとなんて実際には 10 月 1 日なんですね。ですから日にちと感覚が違う、これが旧曆との差です。

そして文久 2 年が 1 年あって、文久 3 年に江戸から京都へ向け出立してしまうんですね。と、もう一月か二月ぐらいしかないわけで、全部足してくと 1 年 5 ヶ月 3 日というのが、近藤勇が正式に免許とか切紙を出せた期間です。日野の佐藤家とか小島家に神文帳が残っているんですが、これは近藤が京都から帰ってきた時にまた門人を教えたいからと言うので、留守に入門させてたわけですよ。ところが最終的に近藤勇が斬首されたから、剣術を教えることができなかった人たちの神文帳と言うことで、知らない人が見ると、ああ近藤に剣術を教わった人達と思うのが、実は教わってないと言ふことがはっきりしているわけです。

それで書簡の方に移ってみたいと思います。 近藤勇の書簡、漢文で書いてあるのでちょっと難しいところがあるんですが、結構長いんですね。今日は書簡を読むというのが講演テーマですので全部読んでみますけど。一応読んだところを目で順番に追って行ってください。

幸便を以って甚寒相伺候て、一筆啓上仕り候、御一統、愈御清健に御座渡らせられ、珍賀奉り候然れば、當方一向異儀無く罷在候間、憚りながらご心配下され間敷候、

近藤勇は時々ですね郷里の人々の心配して手紙出しますから、まとめてこれ 8 名連名なんですけど、一応こんなことやってるよと状況報告ですね。それを書いてきたんで手紙が長くなってしまったんですけども。これは文久 3 年 11 月 29 日の書簡なので、京都へ行ってから、京都であったこと、それについて触れています。

傍親共病中種々、御厚配の趣成され候段有難く、厚謝奉り候、當節快全の由、伝聞仕り野拙において安心仕り、是全く諸賢兄方の御世話とは是亦有難く存じ罷在候

快全はひっくり返して、全快じゃないかなと思うんですけどね。親どもって言ってますけれども、これは近藤周助の事ですね。当時近藤が京都行ってからは周齋と名乗っていたと言ってます。老齢のために、病気になるまで多分脳梗塞みたいなのを起こしたと思うんですね。それで体の体調がすぐれないと、それで時々大先生の具合が悪いから江戸に帰ってきてくれなんていう手紙を送ったりしてんですけども。でも、これによると親どもの事も留守宅の皆さんに色々ご心配していただいて大変感謝していると。当節全快の由とあるので、当節だいぶ良かったので安心したと言う、そういう内容だと思います。

將に洛陽形勢漸々穩成様には之有り候、共未々天下御治定相立たず、之に依り大和一騎（探）

これ馬の一騎じゃなくて、百姓一揆の一揆。これ本当は百姓の一揆じゃなくて大きな事件なんですね。ただそういう書き方をしています。大和一揆というのは、文久 3 年の 8 月 17 日に、大和の五條代官所を襲った事件で、天誅組というのが、幕府転覆のために起こした事件です。これから天皇の世にしたいと言って蜂起したのですが、時期が早かったため、あっという間に壊滅してしまつた。ですから 10 日のちの、8 月 27 日にはそれが平定しています。

落去仕り候へば、亦々但州にて一騎蜂起いたし、夫是長藩においてハ防禦的手段追々伝聞仕り、今日天下安危此一虛（拳）に之有り、心配罷在り素より野子事、

但州というのは、平野國臣等が但馬で拳兵した生野の変です。これは、もって小規模だったので、簡単に鎮圧されてしまいます。そういうことで、京都の周辺でそんな風な事件が起きているということを知らせています。野子とは近藤勇のことです。

不文武短才の事に候へ共、此軀を厭わず赤心を抱き、殆は迄周旋仕り是非共大樹公卿上洛進められ、其上天下の御治定、聡と御取極々御英断をせられ候様、願居候折柄両御丸御炎焼の由、之に依り暫時御因循の由残念に存じ奉り候、

3 月 4 日に家茂が將軍として 230 年ぶりに文久 3 年に上洛したんですが、その後 6 月 13 日に江戸へ大阪から船で帰ってしまうんですね。そして近藤勇は、さらにまた上洛してほしいという考えを持っていて、それが「大樹公卿上洛勧められれば天下のご実定が」に上洛りまるとまるんじかないかと言っているわけです。そして両御丸というのは、11 月 15 日に江戸城の本丸と二の丸が炎上して、そのことを伝えています。

就ては町奉行永井主水守殿、去ル十九日御所施業院に於いて面会、数刻周旋の物語致し、それより肥後守殿内小野権之丞殿同道にて、御上洛周旋として東下致され候、亦夫々諸候よりも両三人宛同様下向致し候、之に依るも急々御上京にも相成らず候は、拙者事も其儀周旋方にて年尾之内下向致す可き哉、

松平容保の家臣小野権之丞らが江戸に下って上洛の、將軍の幹旋をしているわけですね。近藤勇も周旋方として、年内の内に江戸に 1 回帰りたいんですけども、それが時間的に不可能であるということですよ。

斗り難く萬々一野子東下の上、御因循にも相成候は、必々絶命相成可くと存じ奉り候、併解し國家の危難に由って死生懸わり候儀は更々厭候事御座無く候共、若亦御上京往引にも相成り候得ば、亦々天下喧嘩にて遂に凶形危難に相成可き哉と心配罷在候、依ては諸賢兄方にも此任、宜御推察下さる可候、尤も関東表忠尽忠報國、新徴組の有志方、如何相心得候哉、去ル二月中上京暫時滞京直様東下仕、其後聊の御奉公周旋の廉も相見えず、

喧嘩と言うのはやかましいう事、騒がしいという事。 新徴組は最初に浪士組として京都へ来て、それで清河八郎が、本隊を引き連れて江戸へ帰ってしまった、新徴組を結成したんですね。庄内藩お預かりで、江戸の見廻りをしています。ところが、新徴組は見廻りだけでなくで、大した功績もなく、幕府の新規の召し抱えとなって禄位を受けたことに対して、近藤はそれはけしからんと言て憤慨しているわけです。

是全ク報國の義名偽り候哉と存じ奉り候、當節折柄身命を抛ち、周旋之有り申す可くの節其儀に及ばず、是歎息致可く哉と存じ奉り候、且亦擊劍稽古場所相替らず、御厚配成下され萬々有難く存じ奉り候、當節別して所々御出精の由、是亦貴兄方の御骨折謝し奉り候、拙子義も白刃を凌ぎ功利名遂げ候上は、必々其家へ歸り擊劍職相勤め度候間、暫時ご厚情の程願入れ候、先ずは御用繫勤に付、乱筆御仁免下さる可候、紳々不具  
近藤勇  
佐藤様、萩原様、寺尾様、蔭山様、島崎様、立川、中島様、小島様、宮川様、稽古場、御一統様

近藤勇の道場は小島鹿之助の書いた『両雄士伝』によると、「号試衛 場を構え」とあって、その後、最初小島資料館の史料しかなかったんですが、その後いろいろ発見されて、連光寺の富沢さんの日記とか、佐藤彦五郎の日記が見つかったんですね。その中にちゃんと試衛場と書いてあるので、どうも史料から見ただけでは試衛館ではなく試衛場と読んでいたようです。それで八切止夫さんが試衛場って意味わからないから、誠を名乗る誠衛館ができたかということがあって、そう言う小説も出てんですけど、それはこじつけなんだ、誠を名乗る誠衛館ができたかと言うのが、近藤周助がいうたと同じに名乗るんでしたら天保 10 年です。新選組とは丸つき関係ない時代なので、新選組が誠の旗を旗頭にしていた誠で言うんで、誠を守るんで誠衛館だと言うんですけど、それはこじつけで間違いだと思います。

私は試衛道場と呼んでたのが長いから試衛場と言っていたのかなと思うんです。ですからここにも、撃劍、稽古場所って、何か丁寧に書かれています。

そしてこの 8 人は有力門人なので、門人たちの世話をしているから、近藤の稽古場は閉じてしまったけど、その件についてはもう少しと言ってます。

さっき話した、拙氏と言うのは勇ですね。拙氏儀も白刃をしのぎ、白刃を湛り抜けて、無事に命が残りましたら、功成り名遂げ、功成りと言うのは多分、攘夷を新選組の重要目標にしていますので、攘夷を実行して効果をあげることができたら、新選組を解散して江戸へ帰って再び撃劍職を務めたい。ですからそれまで留守の間お願いしますよ。そういうことを言ってるわけです。

ここに名前が出てまして佐藤様、萩原様、寺尾様、蔭山様、島崎様、立川、中島様、中島様、中島様だけ立川と書いてあって、あとは場所を書いてないんですけど。小島様、宮川様、稽古場御一統へと言うんで、全部で 8 名宛です。

一番の佐藤は佐藤彦五郎で、日野宿の寄場名主、萩原さんは萩原多賀次郎、これは江戸の御家人だと思えます。寺尾さんは寺尾安二郎という、田安家の人、田安藩ですね。蔭山新之丞、これも御家人。島崎勇三郎は周齋の甥で、後に与力になったと言ってます。立川中島次郎兵衛は、佐藤彦五郎の組合村の大惣代名主。小島鹿之助は小野路村の小島ですね。近藤勇の長兄の宮川音五郎と言うことで、この 8 名宛です。

尚々時候、御厭成され候様 存じ奉り候親共家族義共、然る可き様希い奉り候、段々御禮申上度、心得罷在候へ共、筆紙に尽くし難く存じ奉り候、いつれ歸國の上、萬々御禮申上ぐ可候、且相損シ候、刀御覧に入れ候間、御一覧の上拙筆御遣し置下さる可候、白刃の戦は竹刀の稽古とは格別の違いも之無く候間、劍術執行は、能々致し置き度事に御座候、必ず御出精願う所候、以上、御一覽の上御名當に御遣し下さる可候

11 月 29 日出す 御世話役、剣客、京師にて、御一統様、  
近藤勇

長い書簡なので、これ 8 枚書くの大変だから、廻状形式で回してほしいと言っているのが最後ですね。そしてここにあります、近藤勇は実戦として戦ってますので、刀の善し悪しで生死が決まるんですね。ですから折れた刀と言うのは非常に興味があって、それを研究するために折れた刀を近藤道場に送っていますから、それがここに非常に書いてある訳です。白刃の戦い、実際は竹刀の稽古とは格別の違いもなくと言うのは、私はかなり違うと思うんですね。どこが違うかということ、それは気力と格闘か、実戦の気持ちでやると、そういう力を込めた言い方がこれじゃないかと思えます。ですから普通の稽古が大事だから、普段ちゃんとやっていれば、いざという時に役立つよと、まあそういう風なことを言っている訳です。近藤勇の手紙は、やはり剣客なので、よく刀剣談とか刀に関することが書いてあるんですね。